



休刊
大正第一第三日曜
定價一ヶ月六十二銭郵便
廣告料 每月半錢指定期
新嘉坡 沼 鹿 輪
新嘉坡市町十六番地
新嘉坡新聞社
發行所

拈華微笑 さん遊し顔

ても追ひつかぬを考へてやらう』……考へばヒヤーもの……『ハイ
る月を宿して傾くる金波の
風情得も云はれぬに食しき
懐を唆られ乍ら、富内湖
所に抵り使丁を煩はして西輪』

『(今月今日)一

に紹介所の四家

町中倒さで歩い

悲しも』

『山ふごろに抱擁され
静になごめる恩洞湖は暮
れ近き空の濃き藍色に水を行く海を眺めては男盛りの
漣波いと寂しう、墨繪の様心あやしき迄にさびしさを
にその影をおとす湖邊の山覺えて由なき歌など口吟み路八里の疲れを一風呂に流
容を抱きたるまゝ、静かに申し候(山上の、は故郷舞し、夕飯したむる暇も焦
暮れ行く湖の静けさ、蘆花
が『偉人の歿後斯の如し』
と狀したる陽入りて間もなく
きオレチの殘照一沫赫焰
たるが更に嬉しくターナー
コロオの巨匠が丹精を凝ら
したる大傑作のいみじき風
景はここ東海岸の富内に程
近き恩洞湖畔の夕暮れに於
て遺憾無くこれを見るを得
られ申し候

旅を行く身の暮れ近く
足は自づと早まる中を、尚
は刻々にうつろひ行く油の
景色を眺め乍らもろち戦く
湖沿ひの細狭を行く事約一
里、漸く夜の帳に裏まれて
安らげき眠りに、らんとす
る湖に別れ右へ折れて丘上
のやち道を富内へ急けば
タさりし初冬の海幽かに丘
の彼方に鳴りて旋て水や天
なる薄雲色の混沌澁知らぬ
夕の大海上はわが眼前に展
開致され候

午前七時ラヂオ體操(大
阪より中継)

九時十分分用品値段、料
理献立(蛇のむら製茶)▽
秋穀教子發表家庭講座▽
(度量衡・貨物の心得)東
京府教育課長官致五郎

電話(大阪より中継)第一

放送交響樂團、一、雅樂
部(小學校二學年)第三

『後王』二、グーグルフリ
午後〇時五分獨唱、アル

求人方面のシケ

役場更員全部が

谷所長の官金に刈を通した

口の渡しを渡つて富内出張、一、一二二日稿一日一信の二

所に抵り使丁を煩はして西輪』

『(今月今日)一

に紹介所の四家

町中倒さで歩い

悲しも』

『山ふごろに抱擁され
静になごめる恩洞湖は暮
れ近き空の濃き藍色に水を行く海を眺めては男盛りの
漣波いと寂しう、墨繪の様心あやしき迄にさびしさを
にその影をおとす湖邊の山覺えて由なき歌など口吟み路八里の疲れを一風呂に流
容を抱きたるまゝ、静かに申し候(山上の、は故郷舞し、夕飯したむる暇も焦
暮れ行く湖の静けさ、蘆花
が『偉人の歿後斯の如し』
と狀したる陽入りて間もなく
きオレチの殘照一沫赫焰
たるが更に嬉しくターナー
コロオの巨匠が丹精を凝ら
したる大傑作のいみじき風
景はここ東海岸の富内に程
近き恩洞湖畔の夕暮れに於
て遺憾無くこれを見るを得
られ申し候

旅を行く身の暮れ近く
足は自づと早まる中を、尚
は刻々にうつろひ行く油の
景色を眺め乍らもろち戦く
湖沿ひの細狭を行く事約一
里、漸く夜の帳に裏まれて
安らげき眠りに、らんとす
る湖に別れ右へ折れて丘上
のやち道を富内へ急けば
タさりし初冬の海幽かに丘
の彼方に鳴りて旋て水や天
なる薄雲色の混沌澁知らぬ
夕の大海上はわが眼前に展
開致され候

午前七時ラヂオ體操(大
阪より中継)

九時十分分用品値段、料
理献立(蛇のむら製茶)▽
秋穀教子發表家庭講座▽
(度量衡・貨物の心得)東
京府教育課長官致五郎

電話(大阪より中継)第一

放送交響樂團、一、雅樂
部(小學校二學年)第三

『後王』二、グーグルフリ
午後〇時五分獨唱、アル

求人方面のシケ

役場更員全部が

谷所長の官金に刈を通した

口の渡しを渡つて富内出張、一、一二二日稿一日一信の二

所に抵り使丁を煩はして西輪』

『(今月今日)一

に紹介所の四家

町中倒さで歩い

悲しも』

『山ふごろに抱擁され
静になごめる恩洞湖は暮
れ近き空の濃き藍色に水を行く海を眺めては男盛りの
漣波いと寂しう、墨繪の様心あやしき迄にさびしさを
にその影をおとす湖邊の山覺えて由なき歌など口吟み路八里の疲れを一風呂に流
容を抱きたるまゝ、静かに申し候(山上の、は故郷舞し、夕飯したむる暇も焦
暮れ行く湖の静けさ、蘆花
が『偉人の歿後斯の如し』
と狀したる陽入りて間もなく
きオレチの殘照一沫赫焰
たるが更に嬉しくターナー
コロオの巨匠が丹精を凝ら
したる大傑作のいみじき風
景はここ東海岸の富内に程
近き恩洞湖畔の夕暮れに於
て遺憾無くこれを見るを得
られ申し候

旅を行く身の暮れ近く
足は自づと早まる中を、尚
は刻々にうつろひ行く油の
景色を眺め乍らもろち戦く
湖沿ひの細狭を行く事約一
里、漸く夜の帳に裏まれて
安らげき眠りに、らんとす
る湖に別れ右へ折れて丘上
のやち道を富内へ急けば
タさりし初冬の海幽かに丘
の彼方に鳴りて旋て水や天
なる薄雲色の混沌澁知らぬ
夕の大海上はわが眼前に展
開致され候

午前七時ラヂオ體操(大
阪より中継)

九時十分分用品値段、料
理献立(蛇のむら製茶)▽
秋穀教子發表家庭講座▽
(度量衡・貨物の心得)東
京府教育課長官致五郎

電話(大阪より中継)第一

放送交響樂團、一、雅樂
部(小學校二學年)第三

『後王』二、グーグルフリ
午後〇時五分獨唱、アル

求人方面のシケ

役場更員全部が

谷所長の官金に刈を通した

口の渡しを渡つて富内出張、一、一二二日稿一日一信の二

所に抵り使丁を煩はして西輪』

『(今月今日)一

に紹介所の四家

町中倒さで歩い

悲しも』

『山ふごろに抱擁され
静になごめる恩洞湖は暮
れ近き空の濃き藍色に水を行く海を眺めては男盛りの
漣波いと寂しう、墨繪の様心あやしき迄にさびしさを
にその影をおとす湖邊の山覺えて由なき歌など口吟み路八里の疲れを一風呂に流
容を抱きたるまゝ、静かに申し候(山上の、は故郷舞し、夕飯したむる暇も焦
暮れ行く湖の静けさ、蘆花
が『偉人の歿後斯の如し』
と狀したる陽入りて間もなく
きオレチの殘照一沫赫焰
たるが更に嬉しくターナー
コロオの巨匠が丹精を凝ら
したる大傑作のいみじき風
景はここ東海岸の富内に程
近き恩洞湖畔の夕暮れに於
て遺憾無くこれを見るを得
られ申し候

旅を行く身の暮れ近く
足は自づと早まる中を、尚
は刻々にうつろひ行く油の
景色を眺め乍らもろち戦く
湖沿ひの細狭を行く事約一
里、漸く夜の帳に裏まれて
安らげき眠りに、らんとす
る湖に別れ右へ折れて丘上
のやち道を富内へ急けば
タさりし初冬の海幽かに丘
の彼方に鳴りて旋て水や天
なる薄雲色の混沌澁知らぬ
夕の大海上はわが眼前に展
開致され候

午前七時ラヂオ體操(大
阪より中継)

九時十分分用品値段、料
理献立(蛇のむら製茶)▽
秋穀教子發表家庭講座▽
(度量衡・貨物の心得)東
京府教育課長官致五郎

電話(大阪より中継)第一

放送交響樂團、一、雅樂
部(小學校二學年)第三

『後王』二、グーグルフリ
午後〇時五分獨唱、アル

求人方面のシケ

役場更員全部が

谷所長の官金に刈を通した

口の渡しを渡つて富内出張、一、一二二日稿一日一信の二

所に抵り使丁を煩はして西輪』

『(今月今日)一

に紹介所の四家

町中倒さで歩い

悲しも』

『山ふごろに抱擁され
静になごめる恩洞湖は暮
れ近き空の濃き藍色に水を行く海を眺めては男盛りの
漣波いと寂しう、墨繪の様心あやしき迄にさびしさを
にその影をおとす湖邊の山覺えて由なき歌など口吟み路八里の疲れを一風呂に流
容を抱きたるまゝ、静かに申し候(山上の、は故郷舞し、夕飯したむる暇も焦
暮れ行く湖の静けさ、蘆花
が『偉人の歿後斯の如し』
と狀したる陽入りて間もなく
きオレチの殘照一沫赫焰
たるが更に嬉しくターナー
コロオの巨匠が丹精を凝ら
したる大傑作のいみじき風
景はここ東海岸の富内に程
近き恩洞湖畔の夕暮れに於
て遺憾無くこれを見るを得
られ申し候

旅を行く身の暮れ近く
足は自づと早まる中を、尚
は刻々にうつろひ行く油の
景色を眺め乍らもろち戦く
湖沿ひの細狭を行く事約一
里、漸く夜の帳に裏まれて
安らげき眠りに、らんとす
る湖に別れ右へ折れて丘上
のやち道を富内へ急けば
タさりし初冬の海幽かに丘
の彼方に鳴りて旋て水や天
なる薄雲色の混沌澁知らぬ
夕の大海上はわが眼前に展
開致され候

午前七時ラヂオ體操(大
阪より中継)

九時十分分用品値段、料
理献立(蛇のむら製茶)▽
秋穀教子發表家庭講座▽
(度量衡・貨物の心得)東
京府教育課長官致五郎

電話(大阪より中継)第一

放送交響樂團、一、雅樂
部(小學校二學年)第三

『後王』二、グーグルフリ
午後〇時五分獨唱、アル

求人方面のシケ

役場更員全部が

谷所長の官金に刈を通した

口の渡しを渡つて富内出張、一、一二二日稿一日一信の二

所に抵り使丁を煩はして西輪』

『(今月今日)一

に紹介所の四家

町中倒さで歩い

悲しも』

『山ふごろに抱擁され
静になごめる恩洞湖は暮
れ近き空の濃き藍色に水を行く海を眺めては男盛りの
漣波いと寂しう、墨繪の様心あやしき迄にさびしさを
にその影をおとす湖邊の山覺えて由なき歌など口吟み路八里の疲れを一風呂に流
容を抱きたるまゝ、静かに申し候(山上の、は故郷舞し、夕飯したむる暇も焦
暮れ行く湖の静けさ、蘆花
が『偉人の歿後斯の如し』
と狀したる陽入りて間もなく
きオレチの殘照一沫赫焰
たるが更に嬉しくターナー
コロオの巨匠が丹精を凝ら
したる大傑作のいみじき風
景はここ東海岸の富内に程
近き恩洞湖畔の夕暮れに於
て遺憾無くこれを見るを得
られ申し候

旅を行く身の暮れ近く
足は自づと早まる中を、尚
は刻々にうつろひ行く油の
景色を眺め乍らもろち戦く
湖沿ひの細狭を行く事約一
里、漸く夜の帳に裏まれて
安らげき眠りに、らんとす
る湖に別れ右へ折れて丘上
のやち道を富内へ急けば
タさりし初冬の海幽かに丘
の彼方に鳴りて旋て水や天
なる薄雲色の混沌澁知らぬ
夕の大海上はわが眼前に展
開致され候

午前七時ラヂオ體操(大
阪より中継)

九時十分分用品値段、料
理献立(蛇のむら製茶)▽
秋穀教子發表家庭講座▽
(度量衡・貨物の心得)東
京府教育課長官致五郎

電話(大阪より中継)第一

放送交響樂團、一、雅樂
部(小學校二學年)第三

『後王』二、グーグルフリ
午後〇時五分獨唱、アル

求人方面のシケ

役場更員全部が

谷所長の官金に刈を通した

口の渡しを渡つて富内出張、一、一二二日稿一日一信の二

所に抵り使丁を煩はして西輪』

『(今月今日)一

政府の買上げ前後が

地方に於ける今後の米相場

平町某有力商人の觀測談

詩南社歌會



投
稿

書

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌